

8年4月 開学

# 秋田桂城短期大学

—その概要と設置による波及効果—



学校法人秋田経済法科大学が文部省へ設置認可申請中の秋田桂城短期大学は、八年四月の開学を目指し、現在、清水三丁目（旧秋田技能開発センター跡）で校舎の建設が進められています。校舎の建築延べ床面積は約一万三千平方メートル、釈迦内字高館下に設置されるグラウンドの面積は約一万平方メートルです。去る五月十日には、佐々木知事をはじめ県北の各市町村長らが出席して地鎮祭が行われ、工事はいよいよ本格化しました。工期は来年二月までの予定ですが、順調に進めば、八月には校舎の外観が整うこととなります。

秋田桂城短大に設置される学科は看護学科（三年制・一学年五十人）、人間福祉学科（二年制・一学年四十人）、地域社会学科（二年制・一学年百人）の三学科。特に地域社会学科は、全国にさががけての開設となる独自のな学科です。学生総定員は男女計四百三十人。開学後三年目からは、教職員を合わせ約五百人が大館市で生活することになります。このことは大館市にとって、地域文化の向上はもちろぬ、消費の拡大や民間活力によるアパートの建設、あるいは年間二百人近い人材の輩出など、直接・間接の経済効果が大きいと期待できることから、地域活性化の起爆剤になるものと思われれます。

## 秋田桂城短大設置の経緯

県北地区にはこれまで、文部大臣所轄の大学・短大が設置されていませんでした。そのため、地域の若者・父兄から設置の要望が強く、また経済界からは、地域に根ざした専門的な知識を修得した人材の供給が求められていたことから、高等教育機関の誘致運動は全市的な高まりを見せていました。

その後、平成三年一月に学校法人秋田経済法科大学の佐々木理事長（秋田県知事）が大館への短大設置について積極的な姿勢を示したことをきっかけに、経法大の短大誘致がにわかに盛り上がり、県北二市二郡（大館市・鹿角市・鹿

6月	県北地区高等教育機関設置協力会を設立し募金活動開始
11月	短大の名称を「秋田桂城短期大学」と決定
6年4月	文部省へ第1次設置認可申請
6月	市が短大建設用地譲渡
12月	文部省が第1次設置認可申請の合格判定
7年3月	校舎の建設着工
6月	文部省へ第2次設置認可申請

## 秋田桂城短大の概要

文部省では、三年六月の短大設置基準改正に際し、今後の大幅な十八歳学齢人口の減少を見越して、大学の新設は原則として抑制することとしました。それにもかかわらず秋田桂城短大の設置が順調に進んでいるのは、同大の特色ある学科構成によるものといえます。

### 看護学科（3年制・入学定員50人）

単なる技術や資格取得ばかりでなく、幅広い教養と豊かな人間性を有する看護婦（士）の育成を目指します。また、人間福祉学科と密接な連携を図って、増大する保健・医療・福祉の包括的サービスを実践できる人材の育成を目指します。

### 人間福祉学科

（2年制・入学定員40人）

平成十七年には県民の四人に一人は六十五歳以上になるとい

角郡・北秋田郡）の官民が一体となった誘致運動が展開されました。

二年にわたる誘致運動の結果、四年十二月に経法大が大館への短大設置を決定、今日に至っています。

### 誘致運動の足跡

3年1月 佐々木経法大理事長が大館への短大設置に積極発言

7月 市役所内に短大誘致準備室を設置

9月 秋田短期大学誘致促進期成同盟会設立

4年12月 経法大が短大設置基本計画を決定

5年5月 学長就任予定者に宮城一男氏（前弘前大学教養部長）を選定